

いわき市(福島県):深夜型おかえりデマンドバス「ナイトバス」

バスの夜間運行による公共交通の利用促進

人口	354,492 人	モード	コミュニティ バス
面積	1,231.34 km ²	法令	道路運送法 第 21 条
人口 密度	287.89 人/km ²	運営 主体	いわき市



■ 取組の背景

地域と交通の状況

【中心市街地】【公共交通の衰退】

- いわき市では自動車依存型の都市構造に加え、バス路線が減少し、中心市街地の衰退、公共交通の利便性の低下が問題となっていた。

活用メニュー(制度・協議会等)

【市町村単独事業】

- いわき市が公募した「地域交通ステップアップ事業」に、トータルモビリティ研究会(いわきの街づくり・環境・福祉を「モビリティ」の視点から研究している、市内大学研究者、事業者、個人で組織している、産学官連携組織である。会長:いわき明星大学桜井俊明教授)が応募し、採択を受け実施した事業である。

■ 実現したサービス

サービス内容

【ダイヤの工夫】

- 平成 18 年 10 月～12 月、公共交通が空白となる夜間の時間帯において、いわき市の中心市街地に位置するいわき駅から、最寄りの大規模新興住宅地付近まで運行する「お帰りデマンドバス(ナイトバス)」の社会実験を行った。
- 利用者は路線バス終了後の JR・高速バスのいわき駅到着便利用者、いわき駅前周辺施設を利用する一般客や飲食客である。
- 降車地は既存バス停(29 箇所)に 27 箇所を加えて計 56 箇所とした。利用者の自宅に近い地点まで運行できるように、バス停を細かく設置。
- いわき駅の出発時刻は 22:35、23:35、0:30。運賃は 190～330 円。月～金曜日のみ運行。
- 平成 19 年 4 月から本格的な運行が開始された。平成 20 年 4 月からは平日の金曜日のみ運行であり、運賃は 300～500 円である。
- 実証実験はいわき市が運営主体となり新常磐交通に運行委託した。本格運行は同社の自主運行となった。

技術

【情報提供システム】

- 旅客乗車時に降車停留所番号を確認し、その降車停留所のみを最短距離で運行するといった全国初の試みをしている。(乗車は最初の 2 つの停留所のみ。)
- 東日本国際大学、慶応大学大学院の協力により GPS を利用したバス位置情報をインターネット上で発信するサービスを提供した。(実証実験のみで実施)

■ 効果と負担

効果

【利用者数の増加】

- ・ 実験期間中延べ 1,517 人が利用し、1 日あたりの平均乗車人員は約 25 人であった。また本格運行後の平成 19 年度の利用実績は 1,658 人(平均 5.7 人/日)であった。(実証運行時は年末の忘年会シーズンであり利用が多かった。)
- ・ これまで家族送迎などで通常バスを利用しない人についても自家用車利用から公共交通への転換が図れた。

負担

【市町村負担】

- ・ 実験時の運行経費約 100 万円は、市が全額負担(もともと提案公募型の市事業のため)。

■ プロセスと調整

運行前アンケート調査

【プロセス:現状把握】

- ・ トータルモビリティ研究会では、社会実験を行う前に、深夜の帰宅手段など日頃の移動手段について、またナイトバス事業に関する意識調査を行い、その結果を運行時間・運行バスタイプ・運賃に反映させた。またアンケートの機会を利用して愛称名を募集した。

関連団体との協力体制の構築

【プロセス:体制構築】

- ・ トータルモビリティ研究会は、地域住民組織、地元飲食業界、協力企業、大学と連携体制を整え、調査及び社会実験の設計、結果分析を行った。
- ・ 地域住民の協力としては、チラシの配布による利用促進の呼びかけなどの協力があった。
- ・ 地元飲食業界役員会の協力として、飲食店内への PR チラシの掲示など、利用促進の協力があった。
- ・ 企業協力として、アルパイン社の協力により運転士の運行補助システム(カーナビゲーションシステム)を導入した。(アルパイン社はカーナビメーカーで社会貢献のために協力した。)
- ・ 大学からの協力では、東日本国際大学、慶応大学大学院の協力を得て、GPS 利用によりナイトバス現在位置情報をインターネット上で発信するサービスの実験が行われた。

利用者インタビュー及びアンケートの実施

- ・ 実験時の乗車場所において、利用者へのインタビューを実施するとともに Web アンケートも実施し、利用実態や満足度、本格運行に向けた改善要望などの意見集約を行った。

■ 創意工夫・知見・教訓

自発的な研究会

【知見:主要なプレーヤーの存在】

- ・ 今回の社会実験は、市内の 3 つの高等教育機関、民間企業、行政機関の有志が自発的に連携して活動した研究会「トータルモビリティ研究会」が主体となって行った。そのため、より柔軟な事業考案、さまざまな団体との協力体制のスムーズな構築が行われた。

積極的な PR

【PR の必要性】

- ・ 社会実験前には PR チラシを全戸に配布。実験中も PR チラシの全戸回覧を行ったり、既存のバス停に利用方法を表示したり、報道機関を活用するなど、利用促進のために積極的な PR を行った。
- ・ ナイトバスのロゴマークを作成し運行車両に貼り付け、動く広告塔とした。

■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：いわき市都市建設部都市計画課総合交通対策室 電話 0246-22-1120

参考 URL：トータルモビリティ研究会「深夜型お帰りデマンドバス 愛称“ナイトバス”社会実験報告書」

http://tmp.tonichi-kokusai-u.ac.jp/nightbus_report.pdf